



日 程 表

☆7月25日（土曜日）

場所：クロスパルにいがた

午後1時 対面式、諸連絡、記念撮影

午後1時30分 各ご家庭へ

☆7月26日（日曜日）

午後3時 各ご家庭にて解散

★24家庭32人の留学生（6カ国1地域）で行いました。

当事業「留学生のためのホームステイ」は、新潟市在住、在学の大学・専門学校の留学生を対象に1泊2日で、日本の家庭生活を体験してもらい、また受け入れ家庭では、国際交流のきっかけ作りが出来ればという主旨で行っております。

中国：劉 玲 (リュウ レイ)

この二日間のホームステイは、とても有意義でした。普段、学校で日本人の先生と学生の交流機会が少なくないが、ほとんど勉強を中心にする話題なので、日本人の日常生活についてあまり接触できるチャンスがないです。留学とはただの学術面の勉強のみならず、その国の文化と風俗習慣を理解するのも重要だと思います。だから、私は、来日してから、各種の活動に積極的に参加し、日本人の皆様との交流を通じて、いろいろ勉強になりました。今回、ホームステイに参加でき、本当に嬉しかったです。

土曜日の対面式に行ったとき、私たちもホームステイの家族もちょっと緊張していましたが、家に帰る途中でいろいろな交流をしているうちに、その緊張感はなくなりました。家に到着してから、ママが親切に私たちを迎えてくれました。少し休憩した後、夕飯の準備のために、スーパーに行きました。夕飯は、初めてたこ焼きを作りました。いろいろな日本の伝統的な料理を味わいました。夕飯を食べてから、温泉に浸かりました。一日の疲れは解消しました。従って、家に帰ってから、間もなく眠気を感じました。

昨日はよく眠れました。ママは伝統的な朝ごはんを用意してくれました。来日してから、初めてのこのような豪華な和食の朝食をいただきました。元気いっぱいになりました。今日は福島鶴ヶ城と白鳥の湖へ行く予定です。計画通りに、鶴ヶ城の歴史と白鳥の湖の美景を満喫しました。楽しかった1日です。

時間の経つのは、はやいものです。二日間のホームステイが終わりました。ホームステイの家庭との別れの時、名残が尽きませんが、別れの言葉を言わなければなりません。しかし、今度のホームステイを通じて、みんないい関係をむすびました。今後、お互いの交流を続けることを約束しました。ホームステイのチャンスに恵まれて、日本人の日常生活を体験し、日本の文化を習い、いろいろ勉強になりました。

私は、これからもこのような活動に積極的に参加することにします。留学中、日本語能力の向上に努めながら、日本文化の勉強と日本人との交流チャンスを増やすことも精一杯に努力します。今後、身につけた知見を生かして、中日友好の架け橋として活躍したいと考えます。

最後、本当に感謝の意を申し上げます。



中国：秦 浩 (シン コウ)

【訳文】

「炎暑の七月、日本の家族ができた」

時間は、知らず知らずのうちに過ぎてゆくと、言うけれど、それは本を読む人に対してという言葉だと思います。最近落ち着いて、本を最後まで読み切ることができない私にとって、7月のあの週末以来、ずっと忙しく過ごしてきました。あれから早いもので8月末になり、1ヶ月前に参加したホームステイが今でも懐かしい気持ちでいっぱいです。参加できて本当に幸運な事で、このような機会を与えられたことにとても感謝しています。

お母さんの家で過ごした週末は本当に楽しく充実した時間でした。どこから書けばいいのかわかりません。対面式のあと、落語を聞きに行き、その後、家で夕食を食べ、弥彦神社の夏祭り花火大会に行きました。

次の日の日曜日は、朝5時に起き、地引網体験に行き、その後も海で楽しく過ごしました。お昼ごろ、家に帰り、絵手紙を作りました。ホームステイの時間が終わっても、海でBBQをしたり、夕日を見たり、花火をしたりしました。二日間すごく疲れましたが、お母さんのお蔭で、忘れられない週末となりました。ただの幸運だったかもしれない、いやきっと神様が与えてくれたと思います。

日本での留学期間は一年間。お母さんが連れて行ってくれたこの二日間のイベントはどれも年に一回しかないもので、一年一回のイベントは一期一会になるかもしれません。そう思うと

何か無性に感動し、大事にしていきたいと思いました。

それぞれのイベントをどのように説明したらよいかわかりませんが、一つ言えるのが、暑い7月に異国の地で自分の家を見つけ、日本のお母さんができ、本当に幸せでした。

お母さんはもう還暦になり、中国ではのんびり余生を過ごす年齢ですが、とても若々しく、パワフルな方です。積極的に体を動かし、健康で、素敵な生き方だと思います。話によると、退職後、一人でヨーロッパを旅した際、現地の人が大変良くしてくれたので、その恩返しをしたいと思ったそうです。本当に尊敬します。今後、私も私なりの恩返しをしていきたいと思います。

月日が過ぎても、こんな光景が浮かぶでしょう。海辺で朝日の光に顔を照らされながら、魚を獲る二人の若者とお母さん。その後ろにある赤い網と早朝の青い海がコントラストとなった美しい景色。夕日を眺めながら、微笑む3人。太陽の光が顔を照らし、心の奥底まで入り込む。



「朱鷺の舞う空には、わたしたちをつないでいる」 中国：ラク ジュン (LE XUN)

今回の一泊二日のホームステイをきっかけに、初めて日本の家庭に入って、日本人の日常生活を体験することができました。初日の対面式のあと、すぐスーパーに行って、晩御飯の食材を買いました。私を含めて二人の留学生と、小麦粉で一から水餃子を作りました。夕飯の食卓には日本の豚汁と中国の水餃子が並んでいて、食

文化交流の縮図のようでした。和子おばあちゃんが作った豚汁はすごく美味しくて、「これはいわゆるおふくろの味だ」と思わず嘆いたほどで、今でも忘れられない味です。

おばあちゃんは、十数年前に自宅で茶道教室を開いていました。当時、茶室として使っていた部屋は、今でもその侘び寂びの面影が残っています。今は体力のために、茶道をやめたようですが、お茶への深い愛は未だに感じられます。それは、おばあちゃんが可愛がっているペットの茶夢ちゃんの名前から分かりました。「お茶に夢」、なんと素敵な名前でしょう。おばあちゃんはきっと、この名前に茶道への深い思いを込めていると思います。

翌日、旧小澤家住宅に行って、日本庭園を鑑賞することができました。炎天下のもとで、エアコンの効いている和室の中で水を飲みながら、庭内に差し込む木漏れ日と和風の趣のある景色を目にして、心が一層落ち着いて涼しく感じました。先人の美の知恵と現代の科学技術の力を同時に体験して、この上ない享楽でした。旧小澤邸宅で、期間限定の漆器のデザインにも挑戦してみました。漆器に好きな絵を描いた後、描いた線に従って彫ります。最後に、職人が彫ったところに金粉を蒔いて、出来上がりです。日本の漆器は世界に名高くて、英語では漆器のことを JAPAN と呼んでいます。私のふるさと広東省も、漆器で有名なところで、遥かな日本でこのような体験ができて、すごく不思議なように感じました。これも、両国の先人たちの人的交流によるものであると思います。私は漆器に朱鷺と新潟の輪郭を描きました。朱鷺の学名は *Nipponia nippon* で、新潟県の県鳥で、嘗て日本を象徴する鳥と認められていました。2003年に最後の日本産朱鷺「キン」が死亡したことにより、日本で生き残っているのは中国産の子孫のみとなりました。また今、最も人気のある中日友好記念作品(舞劇)の名前も『朱鷺』です。『朱鷺』の中にあるフレーズは心に長く深く響きました。それは、「朱鷺の舞う空には、わたしたちをつないでいる」です。私もこの漆

器に、二日間のホームステイの思い出と新潟での思い出を刻みました。今後、帰国しても、朱鷺の舞う空のもとで、両国の思いを繋ぐことができると思います。

今回は本当に楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。また、チャンスがあったら、ホームステイに参加して、朱鷺の舞う新潟、日本で多くの方々と交流したいです。



中国：トンリガ

7月25日(土)~26日(日)のホームステイを体験して、感想はいっぱい、一言では言えない。

25日、対面式は午後1時から始まった。自分が遅れ、対面式に参加できなかったのが残念だった。寮を出るのが遅かったし、バス停も間違い、降りたり、乗ったり、また戻ったりしてかなり遅くなった。朝から緊張していたため、携帯の充電器も忘れた。申し訳ない気持ちで着いたら、以外だった。国際交流協会の人を迎えに来てくれて、ホームステイ先のご夫婦も笑顔で待っていた。もともと熱い日で、バタバタして行ったが、国際交流協会に着いたら、そういう雰囲気で気持ちがやっと落ち着いた。

10分ぐらい休憩をいただいて、見物が始まった。一番高い建物「朱鷺メッセ」に行った。朱鷺メッセのトップの階から新潟の姿を見て驚きながら、びっくりした。夫婦が丁寧にいろいろ説明してくれた。午後4時ぐらいに夫婦の自宅に着いた。

9月22日がきたら、新潟に来て、ちょうど5年になるが、自分がこんな綺麗な街で住んでいると思ってなかったのが恥ずかしかった。二人の力だけで外国に暮らすため、旦那と二人で本当に勉強とアルバイトしかやっていた。休みになると周りの留学生が日本全国、旅行をしていて羨ましい、二人で日本の色々なところ行きたかったが、まだそういう時じゃないと思っていた。

私は日本の家に入ることがないから、奥さんと喋りながら家に早く着くことを楽しみにしていた。30分も経たず、家に着いた。日本人の家に上がるのが始めてだったから緊張の気持ちはもちろんだが、楽しみな気持ちも大きかった。玄関に靴をきちんと置いて部屋に入り、「わ...」、「え...」、「なるほど」という思いがっぱいになり、そして、すぐ頭に故郷の人々の生活、特に両親を思い出して心が痛かった。

三人でいろいろ話しながら気づいたところ、もう夕ご飯作る時間になった。奥さんが、「じゃあ、二人で話ししてね。」と言ってキッチンに入った。旦那さんが、私の国のこと、地域のこと、特に私の家の状況を知りたかったらしくて、地図を持って、「あなたの家を教えてください。」と言った。地図を一生懸命探してやっと故郷を見つけたが、両親の今の住んでいる村を見つけることが出来なかったのが残念だった。多分地図に出るほどの発展がまだまだかも、でも何とか自分の故郷のイメージを携帯電話の写真で見せた。日本みたいな発展した国の人々に発展中の国籍を持っている中国人(モンゴル人)の私にとっては、家を見せるのがちょっと恥ずかしく、心がちょっと痛かったが、それは本当の状況だからと思って見せた。夫婦をびっくりさせたのが、今も両親の住んでいる実家に私の高校時代(2000年)に電気が入ってきて、それ以前は灯油灯、またライト(日本だと居酒屋さんに置いている芯があってライターでつけている物?)がちょっとわからないが、この話だった。

話が盛んになって、夕ご飯を手伝おうと思っていたのに、すっかり忘れてしまい、失礼をしてしまった。「ご飯ですよ。」という奥さんの声が聞こえた。何分も経たず、大きいテーブルにいろいろな美味しいものが満タンだった。そしてうれしかったのが、娘さん家族も呼んでくれたことだった。

26日、もともと早く起きて寮まで自分で充電器を取りに行きたかったが、夫婦が寮まで送ってくれ、戻ってから朝ご飯を食べた。私は大変お世話になったと思ったが、日本人は責任もっ

てやることが分かった。

午前中に北方文化博物館に行った。全国的にも有数の規模を誇った越後千町歩地主(伊藤家)在りし日のままの豪壮な館に、美術品、民芸品、考古資料を多彩に展示していた。具体的に言えば、[茶の間]、[庭園]、[台所、囲炉裏]、[集古館]、[考古資料館]、[三楽亭]、[古民家]。

特に[台所、囲炉裏]は、私の家も今でも竈でご飯作っているから、一番懐かしかった。一番気になったのが大広間の座敷だった。美しい庭園に面した座敷は冠婚葬祭など特別な行事に年に数回使われているそうだ。大玄関は柱、天井、式台から戸に至るまで全て檜作りだった。特に式台と戸は一枚板を使用、雨戸 26 枚が収まる戸袋や、座敷を囲む廊下には柱が一本もない釣欄間工法等、全てが贅を尽くした造りだった。床の間を挟んで 7 つの部屋があり畳の数は全部で 100 枚にも及ぼしている。ガイドの説明を聞いて日本人がものを大切にすることが分かった。

時間のたつのがはやいもので、午後になり、三人でお蕎麦屋さんでそばを食べ、私の旦那と仲間たちにお土産を買ってもらい、そこからデンカビックスワンスタジアムに行った。そこでは、運動会が行われていた。それを見て大学時代を思い出した。また母校のサッカーグループも思い出した。私もまだ 30 代だが、あそこの選手と比べれば年上だから、やっぱり若い方がいいなあと思った。

それから夫婦は、もう一つ私を連れて行きたかったところがあったが、私の都合で帰ってきました。寮まで送ってもらい、夫婦からもらったお土産も重かった。涙が出るほど感動がいっぱいだった。

最終に二つのセンテンスで今回のホームステイの感想をまとめた。まず、日本が何でも相手の立場から考えてくれて、おもてなしの国と言われるのが分かった。そして、交流しやすく、自分みたいに未熟な若者たちにヒューマニティを忘れず、「頑張ったらどうですか。」みたいな疑問を心に残してくれた。

中国：胡 晓寒 (コ ギョウカン)

【訳文】

幸運なことにホームステイに参加することができました。とても思い出深く、有意義な体験でした。

留学生活も 1 年が過ぎ、学校でも多くの日本人の友達ができ、日本独特の文化をある程度分かってきましたが、日本人の実生活を見ることができたらと思っていました。だから、このイベントを知ってすぐ申し込みました。

ホストファミリーに会った時はとても緊張しました。失礼のないように気を付け、言葉や文化の違いでうまく交流できるかどうか心配しました。しかし、ホストファミリーの優しさで、すぐ安心しました。

家族は 5 人で、若いお父さんとお母さん、可愛い 3 人の子どもたち。初日、ちょうど町内の納涼会があって、お母さんが私と子どもたちに浴衣を着せ、一緒に参加しました。祭りでは、ゲームや日本独特の B 級グルメの店がたくさんありました。会場であった近所の人達は、私が中国の留学生だと知って、とても優しく声をかけてくれました。夜、家の前で花火をし、子どもたちの歓喜の音が響きわたり、あの夜の空が本当にきれいでした。翌日、お母さんは早く起床し、日本式の朝食を作ってくれました。お父さんも「何が好き?」、「食べられないものある?」といつも聞いてくれ、久しぶりに家庭の温かさを感じました。日本に来てから、一番のごちそうでした。

その後、上のお子さん二人と一緒に剣道を習いに行き、日本の伝統文化を体験しました。初めての剣道で、なにもかも新鮮で好奇心いっぱいでした。挨拶、お礼から始まり、一つひとつの基本動作で日本古来の礼儀に対する意識の高さを感じました。同時に、日本人が伝統文化を非常に重んじることも知りました。子どもの時から伝統文化に興味を持つように、貴重な文化財産を大事にするように教育していました。中国もそうしなければいけないと思いました。

剣道の先生が、胴着を貸してくれ、剣道の精

神やルールも教えてくれました。少し疲れましたが、充実して楽しかったです。剣道の精神についてとても興味深く、機会があれば続けていきたいと思いました。

二日間とても幸せでした。久しぶりに家族の暖かさを感じ、日本人の優しさ、面倒見の良さに触れ、別れたくないと思いました。時間があまりにも短かったです。こんなに近くで日本人と交流ができ、文化習慣の違いがあるけど、気持ちと一緒にだと実感しました。優しさと思いやりがあれば、きっとどんな障がいも乗り越えられ、お互いに思いやりと寛大な心を持って接すれば、国家間の隔たりも問題にならないと思いました。

日本人の実生活を見ることができ、本当に感謝します。機会があれば次の出会いもとても楽しみにしています。



中国：孟 慧偉 (モウ ケイイ)

【訳文】

日本に来てから、ずっとホームステイを体験してみたかったのですが、いつも落選でした。だから、当選のハガキをもらった時、「帰国直前にして、この活動に参加できる。」、本当にうれしくて言葉になりませんでした。ラッキーでした。

対面式の前、ホストファミリーの方はどんな家族かずっと考えました。事前に家族に関する資料をもらいましたが、会場に着いた時、多くの家族と留学生が集まっていたので、思わずどの家族かを探しました。司会の紹介でやっと会えました。そして一緒にホームステイをするもう一人の留学生にも会いました。ご夫婦の第一印象は優しく、親切な方だと思いました。

対面式のあと、車で燕市に行きました。40分くらいかかりましたが、道中いろんな話をしました。家族には、娘さんがいて、この二日間は仕事のため家にいないので、私たち4人で過ごすそうです。

二日間本当に楽しかったです。ご夫婦はいろ

んなところに連れて行ってくれ、いろんな事を体験しました。弥彦神社の夏まつり、花火大会、弥彦山登山、日本の和菓子と茶道、手作りのおいしい料理、初めての浴衣、良寛の生家の見学、寺泊の鮮魚市場、日本海を一望できるレストランでの日本料理、おもしろい絵画展の鑑賞、ワイン工場、日帰り温泉などなど、残念ながら全部書ききれないくらいたくさんのところに去了。

今振り返ってみると、本当に充実した二日間でした。ご夫婦は優しくて親切におもてなしをしてくれました。異国にいながら東の間の家の暖かさを味わいました。日本の常識も多く教えてくれて、とても勉強になりました。

二日間はとても短く、あっという間に別れの時が来ました。車で家まで送ってくれて、健康に気を遣い、勉強も頑張ると言ってくれました。二日間だけの出会いでしたが、ご夫婦との絆がすごく深くなったと感じました。まもなく帰国する私にとってご夫婦と会う機会があまりないかもしれないと思うと、本当に残念で悲しかったです。もう少し早く出会えば、どんなにうれしかったか、そうすればいつも会いに行けると思いました。写真もたくさん撮りました。何回も見返し、見るたびに二日間の楽しいホームステイを思い出します。今回の数々の楽しい思い出を胸に刻み、一生大事にしていきたいと思ひます。

最後に、帰国直前にたくさんの体験ができ、今回の活動に本当に感謝しています。心からこのようなとても意義ある活動を続けてほしいです。



エイズイキ

二日間のホームステイがあっという間に終わりましたね。元気いっぱいなパパさんとママさん、かわいい二人の娘さん、短いですが、いろいろお世話になって、本当にありがとうね～。

日本に来て一年、初めて温かい家庭の雰囲気

を感じました。日本人のお家におじゃましたことがなかったので、実は緊張していましたが、ママさんがとても親切で、二人の娘もいろいろ聞いてくれて、なんかいつの間にかもう家族の一員みたいに馴染みました。

夕ごはんにはママさんがいっぱい美味しい料理を作って、みんなで一緒にたこ焼きを焼きました。目の前にいっぱい並んでいた手作り料理と家族みんなの顔を見て、一瞬、夢か現実かわからなくなりました。こんなに温かい家庭の雰囲気は本当に久しぶりですなあ。お酒を飲んだパパさんとママさんは若い頃の出会いまでも教えてくれて、みんな笑いながらたくさん話しました。

夜、寝る前にみんなじゃんけんでお風呂に入る順番を決めるのが面白かったと思います。私が一番最初に入りましたが、グズグズして40分もかかり、みんなを待たせてしまいました。お風呂から出た時、二人の娘はもう布団を敷き始めて、そのシーンを見て、感動しました。なんかかわいい娘だろうね。私は妹と一緒に布団の上で横になって、私達の年齢差が消えたみたいに話したり笑ったりして、夢見ないなあと思いました。

日曜日はみんなで弥彦神社に行きました。信じられないかもしれませんが、私たち四人でおみくじを引いて、みんな大吉でした。弥彦山は新潟のパワースポットってママさんが言いましたから、大吉をプラスして、これでみんなが一番強いパワーをもらいましたね。

お昼はパパさんが一番おすすめのラーメン屋さんに行って、味噌ラーメンを食べました。ラーメンにいっぱい野菜が入っていて、餃子もすごく大きくて、さすが山のお食事処で、何でも量が多いねと思いました。みんなが頑張って食べきりましたが、わたしが結局たくさん残してしまいました。お姉さんなのに、食べ物を無駄にしてしまって、情けないなあ。

あとみんなで水族館にも行きました。ベッドぐらい大きな亀を見て、みんなびっくりしました。パパさんは写真係みたいで、私達のそばで

たくさん写真をとってくれました。天気がとても暑いでしたが、みんなで強い日差しと戦って、なかなか面白かったです。

実は、私がちょっと車酔いで、特に山道のところで吐き気もして、みんなに心配させました。家族が「きき、大丈夫？」って何回も聞いて、その時はほんとに心まで暖かくなって、もうずっとここに残って、また家族と会えたらいいなあと思いました。

親切で、元気な家族みんな、本当にありがとうございました～これからも、家族みんながずっと幸せであるようにね。



「日本の家族 一生まれてはじめてのホームステイ体験」

中国：徐 小雯 (Xu Xiaowen)

日本に来たばかりなのに、幸運にもホームステイに参加することができました。ホストファミリーは4人家族としか知りませんでしたので、どんなプレゼントを用意したらよいかずっと考えていました。会ったら、中国にとっても興味があり、中国が大好きだという事が分かって、お菓子など中国の特産品にすればよかったと思いました。

ホストファミリーは若い夫婦と可愛い娘二人で4人家族です。対面式の時、二人の娘さんが少し恥ずかしがって、自己紹介だけで何も話せませんでした。お母さんはとても若くて、日本女性らしい優雅で品があって、とても明るい女性に見えました。私は人見知りで最初会った時、少し緊張していて、何を話したらよいかわかりませんでした。家に向かう車中、ほとんどお母さんの質問に答えるだけでした。その後、一緒にスーパーに行き、夕食の材料をたくさん買い込んで、帰宅しました。

日本語と日本の文化の勉強と、時間がある時は日本のドラマもよく見ます。でも実際日本の家庭に来るのは初めてでした。夕食が始まる前、みんなテーブルを囲んで、話しながら、お父さ

んを待っていました。お母さんが奥の部屋から世界地図を持ってきて、中国と日本の地図を見ながら、両国のあれこれの話しをし、お互いに理解を深めました。中国の美食と観光名所の話になると、二人の娘さんがうれしそうでした。

夕食の時間になり、お母さんが夕食の準備で台所に行き、お父さんも帰ってきました。

お父さんは一体どんな人だろうとずっと思っていました。テレビドラマの中の日本の父親像は亭主関白で、威張っていて、近づきにくいという印象でしたが、お父さんは全然違いました。お兄さんのようで、若くてとても気さくな人でした。また話しも面白くて、終始口を開けて、笑いが止まりませんでした。

夕食はたこ焼きでした。おかあさんと二人の娘さんの指導のもと、一緒に作りました。ほかにもたくさんのごちそうがあって、刺身、手巻き寿司、サラダ、フルーツの盛り合わせなど色鮮やかで、味もとてもおいしかったです。栄養バランスもよく、日本の主婦の知恵の素晴らしさを改めて実感しました。中国人が食後、散歩の習慣があるとお母さんが知っていて、食後、川沿いへ散歩に行こうと提案してくれました。

夜は、畳の上で夢を見ながら気持ちよく眠れました。あっという間に朝が来ました。

目が覚め、身支度のあと、夕食に負けないぐらいとても豪華な朝食がすでに食卓に並んでいました。その後、一緒に弥彦神社とマリンピア日本海に行きました。

皆さんとの距離がどんどん縮み、自分もこの暖かい家庭に溶け込むことを実感しつつ、残念ながら、お別れの時間が来ました。娘さんと連絡先を交換し、次回会う約束をしながら、別れを惜しみました。1泊2日のホームステイは本当に短かったです。

中日両国はどうしてもっと仲良くなれないのだろう。文化の違い、両国の深い誤解、若しくは政治の影響でここまで硬直した関係になったと私は思います。

おいしい食事や幸せな家族、このごく普通の日本家庭の日常から日本人が、中国を嫌ってい

ないことが分かりました。草の根の交流から始めよう、そうすれば、中日友好はそう遠くはないでしょう。



中国：ジョウ キン

【訳文】

7月25日～26日、1泊2日のホームステイに参加しました。とても実りのあるいい機会でした。

ホストファミリーと会う前は興奮と緊張の気持ちが入り交じり、事前に連絡を取り合ったとき、相手も同じ気持ちだとわかりました。

対面式の時、「どんなものが好き？」など話しかけてくれた時は、うれしくて、少しホッとしました。

お母さんは書道を習っていて、書道の話をしてくれましたが、私は、書道を習ったことがなかったもので、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。お母さんも残念がって、中国人はみんな書道ができると思っていたようです。

対面式のあと、車で家に行きました。温かみのある雰囲気の家がとても気に入りました。また、庭も別世界のように素敵でした。

娘さんがずっと運転していたので、道中お母さんとたくさん話しました。私が日本語でうまく話せないときでも、とても優しく接してくれました。家に入った途端、とても不思議な事に、もともとホームシックではないのに、突然、母に会いたい気持ちになりました。

家の中は整理整頓され、家庭の温もりを感じました。特にソファの上にあったインコの抱き枕がとても気に入って、抱きかかえるとすぐ眠ってしまいました。夕食は鍋でした。南の方から来た私にとっては薄味だったけど、一生懸命準備してくれて、とてもうれしかったです。ごちそう様でした。夜は私の希望で畳の部屋に泊めてもらいました。真夏の夜、セミの声が子守り歌のようで、ぐっすり本当によく眠れました。

久しぶりに7時に起きました。早朝の空気は

とても新鮮で、長くここで生活するとたぶん朝夕の感覚もわからなくなることでしょう。本当に快適で、爽やかな気持ちになりました。

朝食後、またインコの抱き枕で寝てしまいました。その後、近くの温泉に行き、昼食後、とても親切に家まで送ってくれました。

今回 1泊2日のホームステイは本当に貴重な体験でした。日本の生活習慣も少しわかるようになりました。周りの友達にも体験の話をし、また機会があればぜひ参加したいと思います。



遠藤 史子

今回初めてホストファミリーを友人の紹介で経験させていただきました。

我が家に来たのは、日本に来て3年、日本も新潟も大好きな女の子でした。

日本語がとても上手な彼女に助けられ、娘たちはすぐに打ち解け、姉とはガールズトークですっかり盛り上がっていました。

1日目は、同じく韓国人2人のホストファミリーをしている友人宅でバーベキュー。

3人は人生初の「スイカ割り」にマンガの世界だけだと思っていたと驚いていました。暗くなってからは花火を楽しみました。

2日目は、化粧品の仕事をしている私がフェイスマッサージ。メイクもしました。昼食は家族みんなで冷やし中華。料理も手伝ってくれおいしく食べました。午後は、三条の「鍛冶道場」でペーパーナイフ作り。釘を熱し、叩いてナイフにしていきます。暑い中での作業で汗だくでしたが「金物の町 三条」を紹介もでき体験もでき、娘たちも夏休みの思い出もできました。

不安もありましたが、あまり特別なことをせず日常の生活を体験してもらおうと2日間過ごしました。

何を出してもおいしく食べてくれ、中国のこともたくさん教えてくれ、大切な夢に向かって頑張っていることも教えてくれ、たくさんの刺激を彼女にももらいました。

ありがとうございました。



「あつという間の二日間」 大滝 慶佑

ぼくは、英語がしゃべれないので会う前は、とてもきんちょうしていました。でもなんとかジェスチャーなどでコミュニケーションをとりました。

そして最初にアイスを食べに行きました。しかしお母さんが、さいふを車に忘れて、大変なことになりましたが、アイスは食べられました。その後、家でウノやトランプ、ティーパーティなどをしました。でも、ずっと家にいてはひまなので、ラウンド1に行ってボーリングをしました。ぼくは最下位でした。そしてボーリングが終わって、お会計をしたらUFOキャッチャーの無料券とコインプレゼント券をもらったので遊んでから帰りました。

夕食は、お父さんが作った手作りからあげとサラダと大学いもでした。とてもおいしかったです。おなかがパンパンになったら花火をしました。おじいちゃんの家の前でやったのですが、おじいちゃんは犬を飼っているためずっとほえていてうるさかったです。とてもたのしい1日目でした。

2日目は、ぼくが岩室でバドミントンの大会があり、ぼくとお父さんはさきに会場に行きました。1試合目が終わったところにダナさんとお母さんが来てくれました。リーグ戦の3試合は1位で、決勝トーナメントへ行けましたが、準決勝でストレート負けしてしまい結果は、3位でした。来月の佐渡での県大会では、1位を取りたいと思いました。留学生もとても楽しそうに試合を見ていました。とても楽しい2日間でした。

また家によんでその時は、まっ茶を飲んだり、マリンピアなども行ってみたいです。

また、今度は自分が海外に行き、さまざまな文化にふれてみたいと思います。



小野 秀之

今回、初めてホームステイ受け入れを体験しました。中国からの留学生を受け入れました。

彼女は、とても礼儀正しく、日本についてすごく勉強しており、また、来日11カ月ということもあって、日本語もうまく、コミュニケーションに困ることはありませんでした。

7月25日は息子の通う高校が甲子園に向けて試合を行っており、息子はその応援に行かなければならなかったため、対面式は、私と妻の2人で行きました。家族全員で迎えに行かなくて申し訳ないなと思っていましたが、対面後に話を聞いてびっくり、留学生はとっても野球が大好きで、横浜DeNAベイスターズの大ファンというだけでなく、高校野球や甲子園での全国大会も知っていて、「いっしょに応援したい」と言ってくれました。いっぱい野球の話をしました。明日の決勝までいったら応援に行こうと約束しましたが、残念ながら負けてしまいました。

その日の夕食は、おじいちゃんおばあちゃんの家で妹の家族と大勢でバーベキューをしました。小さな姪っ子たちとも仲良くなり、折り紙や綾取り、トランプで遊びました。小学2年生の姪っ子は、中国の折り紙や綾取りを教えてもらってよろこんでいました。

翌日は、マリリンピア日本海を見学し信濃川ウォーターシャトルに乗りました。

この2日間で中国と日本の高校生の違いや気候の違いなど、いろいろな話ことができました。生活面では、中国と日本に大きな違いはないと感じました。1泊2日ではありましたが、たいへん貴重な経験ができました。今回の体験で中国がとても身近な国に感じられました。



「我が家に留学生がやってきた」 川瀬 恵

我が家は主人と私、子ども3人の5人家族です。まだまだ手がかかる子ども達がいるのに、「留学生の受け入れなんてできるのかな。」と不安もありましたが、学生時代にアメリカで3週

間ホームステイを経験し、文化の違いに驚きながらも、生活を一緒にすることで、観光以上に楽しい思い出が作れたことに、いつか恩返しをしたいと思っていたことと、子ども達の夏休みの思い出に国際交流を経験させたい、との思いも重なり留学生を受け入れることにしました。当初不安もありましたが「日常生活と一緒に過ごすことが留学生は一番楽しいと思います。」との国際交流協会のスタッフの言葉にとっても励まされました。

1日目の対面式は、長女のバスケの試合と重なったため、主人と長男、次女がクロスパルに中国人の「邱 徳宏」さんを迎えに行きました。長女の試合が行われている鳥屋野体育館に来た時には、30分前にあったばかりの邱さんの右に長男、左に次女がしっかり手を繋ぎ兄妹のように仲良く話している姿に、「2日間楽しく過ごせそう」と一気に私の不安はなくなりました。長女の試合が終わるまで、体育館でバドミントンと卓球で汗をながしました。邱さんは休む間もなく、子ども達と主人と戦ってくれ何度も何度も「楽しい、楽しい。」と話してくれました。そして夜は庭でバーベキューを開催。日本の焼肉のたれは苦手だったようで、焼肉のたれをラー油、一味唐辛子、塩、こしょうでオリジナルに作っていました。また中国は炭酸飲料が日本のようにきつくないことを知り、子ども達も文化の違いを身近なところで学びました。その夜は家族でUNO大会。(日本にきて学んだそうです。)末娘が邱さんに勝って大喜び。なかなか寝かせてもらえませんでした。

二日目は午前中、子ども達の合唱の練習と一緒に参加してもらいました。午後から山の下市の市営プールに行きました。邱さんの出身地は海がないところなので、海やプールに入った経験がなく、新潟にきて砂場に行くだけだったそうです。最初、鼻の中に水が入り何度か苦しい思いをしたようですが、子ども達から水にはいった時は鼻から息を吐き出すやり方を教わると「プールが楽しくなってきた。」と喜んでくれ、最後は長男がクロールの泳ぎ方を教え、10m泳

げるようになりました。

こうして邸さんとの二日間はあっという間に過ぎていきました。

政治の問題もあり、中国への印象は正直よくありませんでしたが、留学生を受け入れることで、中国への見方もだいぶ変わりました。そして何より、留学生の方が、日本で必死に努力して学んでいる姿を身近に感じ、またぜひお役にたちたいと思いました。子ども達も楽しい2日間となり「来年も留学生をうけいれようね」と話しています。ありがとうございました。



「初めてのホストファミリー」

菅家 幹子

私は以前からHF（ホストファミリー）をやってみたいと思っていました。その理由は娘が留学して10ヶ月間、HFに大変お世話になったので、その恩返しがしたかったからです。

対面式当日、私はどんな人が来るのだろうとワクワク、ドキドキして待っていました。すると、とてもチャーミングな女の子が現れました。話をすると、日本語ペラペラ。

「昼食はとったの？」と聞くと、「まだ食べていない。」というので、二人で小嶋屋へ行き、そばを食べました。その後、北方文化博物館へ車を走らせました。博物館の近くに行くと「ここへ来たことがある。」というので、急きょ、月岡温泉に変更しました。私は、新潟に住んでいるものの、「月岡までの道が、不安だナー」と言うと、彼女は自分の携帯でナビ案内をしてくれました。車の中でも会話は弾み、あっという間に月岡温泉入口に着き、ガラス工芸のお店に入りました。それから温泉中心にある足湯に二人で浸かり、帰りに温泉まんじゅうを買い、また新潟に戻りました。

彼女とは、なんだか初めて会った感じがなく一緒にいても違和感がなく話しやすかったので、何も困ることがなく良かったです。

彼女は7歳の時、日本に来たことがあり、今

回の留学で計4回、日本に来ているとの事、ビックリでした。彼女の家族写真を見たり、将来の夢、韓国ドラマや俳優の話など話はつきませんでした。

今回、留学生に私の得意な「折り紙」を教えようと考えていた私は、彼女に折り紙作品を何点か見せると、折りたいと言ってくれたので、教えました。猫とハイヒール、角だし風船を作りました。折り方が難しいものもありましたが、集中力があり、彼女はすごいナーと思いました。充実した一日でした。

素敵な出会いをありがとう。



木村 弥生

今回、初めて「留学生のためのホームステイ」の受け入れを体験しました。

娘が、中学の修学旅行や高校の語学研修旅行で、オーストラリアやイギリスにホストファミリーが出来たことをとても喜んでいる姿を見たり、8月21日から10ヶ月間、香港でホームステイをさせていただいたりすることから、我が家でも日本を訪れる留学生の受け入れを行うことで、多少なりとも御恩返しが出来ればと考えたことと、また、昨年末、父が亡くなり寂しくなった実家に新しい家族を招くことで、少しでも母を元気づけることが出来たならと思ったことから、このたびの受け入れに手を挙げたものです。

受け入れの一週間前に事務局からお知らせをいただき、中国からの女子留学生が二人来られると聞き、さて、何を食べさせようか、どこへ連れて行こうか、あれこれ考えた挙句なかなか決定打となる案がなく、これは御本人達の希望や意向を聞いてみるのが一番よかろうと電話をかけることにしました。

まずは言葉が通じるだろうかと不安で、恐る恐るでしたが、無用な心配であったようで、二人とも非常に流暢な日本語で受け答え出来る方々でしたので、安心しました。

特にどこへ行きたいとの希望はないということでしたので、実際に会ってから決めることにしました。

当日の対面式には、車が停められず、運転手の私はやむ無く欠席し、高校生の娘と母が出席して、二人を迎えました。

実家（江南区）へ移動する途中、夕飯の食材の買い出しにスーパーに寄りました。すると、二人が、一からすべて手作りの水餃子を作ってくれるというので、粉から材料を買い揃え、これは楽しみと、帰宅しました。

お土産としていただいた向日葵の実（種）の上手な食べ方を教わりながら、お茶（緑茶）を飲み、お互いに自己紹介をしました。

少し緊張もほぐれたところで、水餃子は皮から手作りなので早めに取り掛かったほうが良いと、エプロンをして台所へ。

手際良く作業する姿に、イマドキの日本の女子大学生は、こんなふうに料理や自炊の出来る率は低いだろうになあ、この娘さん達は偉いなあと、大変感心いたしました。

私と母は、亡き父が自身も好物で、週末に私と娘が実家へ帰るとよく作ってくれていた豚汁を作りました。

娘が17時からK-POPのライブビューイングを観るために会場へ送り、娘の代わりに学校の部活帰りの同級生（8月21日からロシアへ留学）を駅まで迎えに行きましたが、夏休み期間ということもあってか大渋滞につかまり、同級生を連れてようやく帰宅した時には、せっかくの熱々の水餃子が冷めてしまっており、私の帰りを待ち侘びていた様子が大変申し訳なかったです。

娘の同級生もまじえての夕食に、二人は、新潟の枝豆、京都の佃煮なども、「大好きです」「美味しいです」と喜んで食べてくれました。

夕食後、娘の同級生を再び駅まで送り届け、ライブビューイング終了後は、娘と、娘と一緒に居た小学校からの友人を連れて帰り、遅い夕飯に彼女らが作ってくれた水餃子を食べさせ、再びその友人を自宅まで送り届け、私は、その

日都合4回の送迎で出たり入ったりバタバタしてしまい、彼女達の相手が十分に出来ず、放ったらかし状態で大変申し訳なかったです。

しかし、彼女達は、夕食後の団欒のひとつきを、TVを観て寛ぎ、それなりに楽しんでくれていた様子だったので、少しだけ気持ちが救われました。

就寝時、二人には、扇風機だけでエアコンのない和室、しかも父の遺影を飾った祭壇や仏壇の前、畳敷きに煎餅布団、蚊取り線香、という、まさに日本古来の方法で休んでもらいました。

二人は、同じ大学に通う学生さんだそうですが、その日が初対面とのことでした。布団に入ってからかなり遅くまで二人で語り合っていた様子でしたので、新たな友人関係を築く良いキッカケになったのであれば嬉しく思います。

翌朝は、ランチとして、日本の夏の代表格の食べ物の素麺・冷麦と、茹でた玉蜀黍（^{とうもろこし}みらい）を食べてもらいました。二人とも薬味のわさびやネギ、おろし生姜なども平気で、とても美味しいと食べており、また、あまりにも日本語が上手なので、そのうちだんだんなんだか日本人のように見えてきてしまいました。

ランチのあと、娘の浴衣を着せてあげて、写真を撮りました。二人とも、22歳と24歳の若い娘さんらしく、浴衣姿がとても似合っていたので、写真だけでなく、新潟まつりの期間などに着せて街を歩かせてあげたかったなあと思いました。

実家の母、愛犬と玄関先で記念写真を撮り、お別れをし、「新潟の伝統工芸プチ体験ミニツアー」へ出発。

途中、再び昨夜の娘の小学校からの友人を拾い、下町の旧小澤家住宅へ。

新潟漆器の金箔絵付けをコースターならばたったの500円で体験出来るということなので、皆で下絵から真剣に取り組むこと一時間近くも奮闘し、最後に皆で綺麗に完成した作品を手に持って旧小澤家の玄関前で記念写真。

コースターを見るたびに、この日のことを思い出さずしてしょう。

終了時間の 15 時なのでどうしますかと尋ねると、万代で用事を足してから帰るとのことなので、万代で降ろし、お別れをして、26 時間のあつという間の交流が終わりました。

娘が翌日の 7 月 27 日から 8 月 8 日迄「東アジア文化都市 2015 新潟青少年交流事業」に参加する準備や、香港留学の準備に追われ、ホームステイ受け入れ体制が整わず、日本の家庭らしいこともさっぱりしてあげられず、果たして彼女達に満足してもらえたのかは、はなはだ疑問ですが、娘の居ない 10 ヶ月の間、二人には今度またゆっくり遊びに来て貰えたらなと思っています。

大変貴重な体験をありがとうございました。



「今回の受け入れもまた新鮮でした」

小林 修・紀子

これまで数回の受け入れを経験してきましたが、モンゴル系中国国籍の留学生受け入れは初めてでした。同じ中国人であっても日本人では想像もできないくらい広大な国土・民族の生活環境を知ることができました。

留学生「トリンガ」さんは、四年間も在日しているとのことですが、日本人の家庭に入るのは初の経験とのことでした。勉強とアルバイトの連続で、初めてのホームステイは相当新鮮な体験だったようです。

我々夫婦もモンゴル語を書いてもらいましたが、初めて見る文字に感動し、彼女のご主人がモンゴル文字の書家だという事を聞き、更に驚いた次第です。

1 日目の夕食は、日本の食卓を体験してもらうため娘家族も呼んで一緒に食卓を囲み、2 日目は、沢海の北方文化博物館に行って日本の昔

の文化・経済・生活を知ってもらうようにしました。彼女なりに日本の一般家庭を体験したことで、日本人の考え方、生活を少しでも知識として吸収してもらえたら嬉しく思います。

これからも機会がありましたら、いろいろな国からの留学生と接していきたいと思っております。



「親の願い」

坂井 可菜

今回、応募したきっかけ、それは我が子に、臆することなく異文化交流してほしい、何でも挑戦する勇気を持ってほしいという気持ちからだ。

我が子は、現在 6 歳・5 歳・0 歳の 3 人。最近、その子達が剣道を習い始めた。日本の国技でもある剣道。もし、留学生がうちに来てくれたら、絶対に剣道を見せてあげたい！！と思っていた。

対面式当日、そこに並ぶ留学生は若く、可愛らしい子が多かった。剣道なんて興味ないかも？という不安と期待が入り混じりながら、対面を待っていた。そして、私達の元に来てくれたのは中国人の留学生は、色白でとても可愛らしい女性だった。挨拶を交わすと、新潟に来てまだ 1 年とのこと。しかし、日本語がとても上手だった。学業の傍ら、バイトも掛け持ちしている。少し話ただけで、努力家で誠実な方というのが伝わった。

1 日目は、子ども達と浴衣を着て近所の納涼会に参加。そして、2 日目に、念願であった、子供達が通っている剣道教室と一緒に参加してもらった。胴着を着てもらい、竹刀の持ち方やすり足、構えの仕方など、細かく子供達と練習した。また、先生が武芸の居合道も教えてくれ、刀を構えたポーズで記念撮影をした。彼女は、最初はとても緊張した面持ちだったが、最後には「とても楽しかった。」と、生き生きとした表情で話してくれた。可愛らしい彼女が、胴着を身にまとった瞬間から、きりっとした表情に変

わり、武士の精神を受け継いだ者の様相を呈していた。

今回は1泊2日という短い期間であったが、留学生と子ども達と一緒に体験するものが多かった。子ども達はこどもなりに、留学生に意味が伝わるように話をしたり、説明したりしていた。また、一緒に剣道をしたことは、忘れられない体験になったと思う。怯むことなく何でも果敢に挑戦する彼女。その姿を見て、子ども達の心の中にも何でも挑戦する彼女の像が植え付いていてくれたら・・・親の願いはひとしおだ。



「楽しかった2日間」

佐藤 文

我が家でホームステイの受け入れをするのは、息子が小1以来。息子はただ今中1です。

市報でホームステイ家庭募集を知り、息子に聞くと即答で『やるっ！楽しそう！』と。ダンナにも聞くと『息子がそんなにやりたいなら。』と。

ホームステイの受け入れの日、ワクワクした気持ちで息子と迎えに行きました。中国人の留学生が我が家に来てくれることになりました。彼は、私たちのことをニコニコと振り返って見せてくれて、喜んでくれていることが伝わってきて、私たちも嬉しくなりました。

事前にもらっていた資料に、趣味 料理 と書いてあったので、料理好きな私は会ってすぐに話も盛り上がりました。1日目の夕方から友人を招いて“ポットラックパーティー”を計画していたので、彼にもパーティー用の料理を教えてもらいながら、作ってもらいました。とても簡単な料理なのに、とても美味しく友人たちにも大好評！最高でした！ 美味しい料理を食べながら、お酒も飲み、中国の話をたくさんしてもらい、とても楽しい夜を過ごすことができました。

2日目は、『弥彦神社に行ってみよう。』とのことで、ドライブがてら10年振りに弥彦神社に行きました。近くに住んでいると意外と行か

ないもので、留学生のおかげで久々に見た弥彦神社は、とても美しかったです。他のホームステイの家族にもお会いしました。皆、行くところは一緒ですね！その後、寺泊へ行き浜焼きを食べて腹ごしらえをしていると、またまた違うホームステイの方に声を掛けてもらい嬉しくなりました。すてきな景色を見ながら、帰宅するともう少しでお別れの時間。UNOを皆で楽しみましたが、お別れが淋しくなり家まで送ってあげることになりました。

息子もたくさん遊んでもらい彼が大好きになっていたので、お別れの時は元気がなくなってしまいました。2月に帰国予定ということなので、その前に卓球大会をする約束をしました。卓球の出来ない息子は、友人と少年センターに通い、一緒に卓球をする日を夢みて練習しているそうです。

次回会える日を親子共々、一緒にパーティをした友人たちも楽しみにしています。来てくれて楽しかった！来てくれてよかった！大好きだよー！



「充実した2日間」

丸山 千衣(中1)

7月25日、26日に中国からの留学生を受け入れました。

1日目は、対面式から始まり「どの子かなー？」と聞いていたら、可愛い女の子2人でした。2人は、日本語がとても上手でしゃべりやすかったです。

その後、家に帰って、一緒に世界地図を見ながら中国の地理や文化、歴史を勉強しました。中国のパンダのことや空の色のことなど、教えてもらうことが出来たのでよかったです。そして、待ちに待った夕食はたこ焼きと手まきずしでした。たこ焼きは、お姉ちゃんと私と留学生の4人で作りました。留学生は、私たちよりも作るのが上手でした。

中国の文化には、ご飯を食べ終わった後に家族で散歩する習慣があると聞いたので、やすら

ぎ堤まで散歩に出かけました。

夜景をバックにたくさん写真を撮りました。

2日目には、いろいろなところに出かけました。まず1番初めに向かったのは弥彦神社です。お参りをした後に4人でおみくじを引いたところ、全員大吉でとてもびっくりしました。

お昼は2人の大好きなラーメンを食べて、その後に水族館に行きました。2人は、タコを見たことがなかったらしく、「これが昨日食べた、タコなのね!」と驚いていました。

この2日間は、とても楽しくて充実していました。私は今まで外国に興味がなく、行きたいと思わなかったけれど、この2人に出会って自分も行ってみたいと思うようになりました。また機会があったら、2人と遊びたいです。



横山 淳

私共家族がお世話した留学生は、中国人の女性で、1年間、日本語の勉強をしに来ていました。

対面式の後、1日目は、①笹団子作りを見て、②みなとびあで、新潟市の歴史を見てもらいました。

③夕方には、たまたまその日にあった、孫のバレエの発表会についてきてもらいました。生でバレエを見るのは、初めてらしく、興味深く、見てくれたと思います。

夕食は、少し遅い時間になりましたが、新潟の刺身での手巻き寿司と、流し（いや、回る）そうめんと、おいしい枝豆と、ビール。新潟の夏の定番を味わってもらいました。娘（三女）の友達も合流し、にぎやかすぎる夕食で、少し戸惑っていたかもしれません。その後、家の前で、花火。近所の家族も合流しました。

二日目は、ゆっくり、日本食の朝食をとった後、北方文化博物館見学。事前に見たいところを確認した際、「日本の家が見たい」と言っていたので、それならば、ここが最高です。昼食は、おいしい蕎麦。そして、新津の駄菓子屋

さんで買い物し、最後は、広い田んぼの中を弥彦山を目指してドライブ。弥彦山には登りませんでしたが、海を見ながら、アパートへ、16:00ぐらいに送り届けました。

少し強行スケジュールだったかもしれませんが、また、慣れないドライブや、慣れない多くの日本人と会って、外国語である日本語で話をして、疲れたことと思います。しかし、きっと、楽しんでくれたことと思っています。

留学生の彼女は、将来のやりたい仕事を決めており、それに向かって、着々と準備を続けています。今回の1年間の留学もその一貫です。とても立派なことであり、我が娘と友達も感心していました。

我が家にホームステイを受け入れるのは3回目でした。1回目は、三女が中学の時韓国。2回目は、三女が高校の時に中国。そして今回でした。どうしても、新潟の美味しいものを食べさせたい、新潟の素敵なおところを見せてあげたいと思い、つい強行日程になってしまいます。それはそれでいいのですが、もっとゆっくり、家にいてもらい、日本と外国の文化や歴史を話し合うというやり方をしてもいいのかもしれない。

新潟市のこのホームステイ事業は、相当長い間実施されており、「継続は力なり」の言葉通り、新潟市と外国との交流の中核の一つになっていることを知りました。ぜひ、この事業を継続していただき、中国人以外の外国人も多く参加し、また、受け入れ家庭も多くなっていくことを期待しています。

